

平成 2 5 年千葉市教育委員会会議
第 7 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成25年千葉市教育委員会会議第7回定例会会議録

日時 平成25年7月17日(水)

午後2時00分開会

午後3時20分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委 員 長	内山 英夫
	委 員	和田 麻理
	委 員	篠原ともえ
	委 員	中野 義澄
	委 員	明石 要一
教 育 長		志村 修

出席職員	教 育 次 長	小池よね子	指 導 課 長	山本 幸人
	教 育 総 務 部 長	竹川 幸夫	保 健 体 育 課 長	津野 政彦
	学 校 教 育 部 長	磯野 和美	教育センター所長	真田 清貴
	生 涯 学 習 部 長	原 誠司	養護教育センター所長	山本 雅司
	総 務 課 長	石野 隆史	生涯学習振興課長	杉戸 利一
	企 画 課 長	大崎 賢一	中 央 図 書 館 長	橘 高俊
	学 校 財 務 課 長	山田 輝夫	生涯学習振興課科学教育推進担当課長	遠藤 悟
	学 校 施 設 課 長	小野 正嗣	生涯学習振興課文化財保護室長	横田 正美
	学 事 課 長	小川 彰	学 事 課 長 補 佐	半澤 仁司
	教 職 員 課 長	伊藤 剛	企 画 課 主 査 補	望月 宏次

書 記	総 務 課 長 補 佐	山本 春樹	総 務 課 主 任 主 事	佐久間 暁子
	総 務 課 総 務 係 長	渡邊 実	総 務 課 主 事	荒井 博行
	総 務 課 主 任 主 事	藤井 拓也		

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より和田委員を指名
- 4 会期の決定
平成25年7月17日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成25年第3回定例会会議録、第2回臨時会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 平成25年第2回千葉市議会定例会について
総務課長より報告があった。
報告事項(2) 千葉市学校教育推進計画の進捗状況点検・評価及び見直しについて
企画課長より報告があった。
報告事項(3) 千葉市立真砂東小学校の仮校舎から本校舎への移転について
学事課長より報告があった。
報告事項(4) 夏季休業中の事故防止について
学事課長より報告があった。
報告事項(5) 第66回千葉市中学校総合体育大会の開催について
保健体育課長より報告があった。
報告事項(6) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とする主な事業について
生涯学習振興課長、及び中央図書館長より報告があった。
 - (2) 発言の要旨
報告事項(1) 平成25年第2回千葉市議会定例会について
内山委員長 総務課長、報告をお願いします。
総務課長 報告事項(1)「平成25年第2回千葉市議会定例会について」、報告します。
第2回千葉市議会定例会ですが、会期は6月25日から7月1

2日までで、「議案質疑」、「教育未来委員会」、「代表質問」、「一般質問」などが行われました。

次に、教育委員会に関する提出議案の審議状況について報告します。

さきの教育委員会会議第6回定例会において議案提出についてご審議いただいた、「平成25年度千葉市一般会計補正予算」、「千葉市立打瀬中学校の増築校舎等に係る財産の取得について」、「損害賠償額の決定及び和解について」の以上3件について、教育未来委員会の審査を経て、7月12日の本会議において可決されました。

次に、質疑・質問についてですが、まず7月1日に行われた議案質疑については2人から通告があり、2人とも、先ほど説明した教育委員会提出の議案に関して質疑をしました。

次に、7月4日から8日に行われた代表質問についてですが、8会派全てから通告があり、そのうち7会派が教育委員会に対して質問を行いました。

また、7月8日から12日に行われた一般質問についてですが、25人から通告があり、14人が教育委員会に関する質問を行いました。

次に、請願の審査についてですが、「請願第6号 就学援助制度の充実を求める請願」が市議会議長宛てに提出されました。本件については、7月1日の定例会本会議において、教育未来委員会に付託され、7月2日の同委員会において不採択とされました。

最後に、教育未来委員会（閉会中審査）について報告します。

市議会閉会中の6月18日に行われた教育未来委員会において、「陳情第3号 学校給食の食物アレルギー対策に関する陳情」、「陳情第4号 学校給食の牛乳代替飲料提供に関する陳情」、「陳情第5号 PTAへの入退会に関する陳情」の3件の陳情について審査し、陳情第3号は採択と、陳情第4号及び第5号は不採択とされたものです。

報告事項(2) 千葉市学校教育推進計画の進捗状況点検・評価及び見直しについて

内山委員長 企画課長、報告をお願いします。

企画課長 報告事項(2)「千葉市学校教育推進計画の進捗状況点検・評価及び見直しについて」、報告します。

学校教育推進計画は、平成21年度を初年度とする7年間を期

間としており、今回は実施４年目の平成２４年度の評価を行います。

まず、進捗状況の概要についてですが、達成指標のうち指標名や最終目標値が変更となる４項目について説明します。

初めに、指標番号１４の「情報教育支援員の配置数」についてですが、当初、情報教育支援員５人を配置し、最終目標値をボランティアを含めて全中学校の５０％の配置を考えていました。しかし本事業を支援員配置事業として、専門知識を有する業者に引き続き委託することとしているため、指標名を「各中学校区の情報教育支援員（ボランティア含む）の配置率」から「情報教育支援員の配置数」に改めるとともに、最終目標値を「５０％」からヘルプデスク及び学校派遣技術者の人数である「３人」に改めています。

次に、指標番号２２です。全国で実施している学力・学習状況調査における質問項目名が変更されたことを受け、達成指標を「『人が困っているときは、進んで助けている』と回答する生徒の割合」から「『人の役に立つ人間になりたいと思う』と回答する生徒の割合」に改めるとともに、平成２４年度の実績値が９３％となったことから、最終目標値を９０％から９５％に変更しています。

また、指標番号２８の「埋蔵文化財調査センターの出前講座の利用」については、児童・生徒が学ぶ機会の充実をはかる指標として、利用学校数よりも実際に授業に参加した児童・生徒数の伸びで比較するほうが適切に状況を捉えることができるため、指標名を改めるとともに、最終目標値を９５校から７，４００人に改めるものです。

さらに、指標番号５０です。磯辺第一中学校と磯辺第二中学校の統合により、中学校数が減少し、青少年育成委員会の数が変更となったため、「『青少年の日』つながりウィーク地域行事を実施する中学校区数」の最終目標値を５６中学校区から５５中学校区へ見直すものです。

次に、評価についてですが、調査未実施の２項目（「不登校児童のうち、登校できるようになった小学生の割合」、及び「不登校生徒のうち、登校できるようになった中学生の割合」）と事業完了などの２項目を合わせた４項目を除く８７項目を評価しています。

平成23年度の評価では、目標レベルを達成しているA評価が60%となっていました。平成24年度ではA評価が49件で、56%となっています。

また、平成24年度の目標レベルを達成していない評価のB+、B-、Cについては、合わせて38件で44%となっています。

平成23年度に引き続き、平成24年度もA評価となっているものは36項目であり、具体的なものとしてはまず指標番号3の『学校の勉強が好きだ』と肯定的に回答する中学2年生の割合が、目標値を50%としていましたが、実績値が65%で、平成20年度の調査から毎年割合が伸びてきています。

また、指標番号34の「子ども読書まつりの参加人数」について、目標値を6,900人としていましたが、新規イベントを導入したことにより、実績が9,954人と大幅に増加をしています。

さらに、指標番号42の「子育てサロンが行う子育て相談への参加者人数」について、目標値を延べ2,200人としていましたが、子育てサポーターを7人増員したことから、実績が2,605人に増加をしています。

一方で、平成23年度に引き続き、平成24年度もC評価となっているものが、3項目あります。

まず、指標番号10の『算数の勉強が好き』と肯定的に回答する小学5年生の割合について、目標値を78%としていましたが、5年生の追加内容の合計時数が全学年中一番多いことに加え、内容的にも単位量当たりの大きさや異分母分数の加減計算など、児童が苦手としている単元が5年生の指導内容に加わったことなどが原因として考えられ、実績が66%にとどまっています。今後については、今年度の補正予算を活用した学力向上サポーター配置事業を活用し、基礎的な計算が迅速かつ確実にできるように、そして素材は生活の中から見つけて提示し、児童が興味を持って問題に取り組めるようにするなどの対応をして改善を図っていきます。

また、指標番号24の「全児童生徒数に対する不登校小学校児童数の割合」については、情緒的混乱による不登校児童が増加したため、目標値の0.25%から実績値が0.34%に増加をしています。これは、家庭環境の不安定さと非行の低年齢化の影響

が考えられることから、家庭環境への支援を行うため、新たにスクールソーシャルワーカーを2人配置するとともに、小学校への支援を手厚くするため、これまでの中学校スクールカウンセラーに加え、拠点方式でスクールカウンセラー3人を配置し、小学校からの要請に対応する体制を整えました。

さらに、指標番号38の「新体力テストにおいて、各学年・種目で全国平均を上回る割合」については、中学校で全国平均の記録が上がったことから、目標値の95.0%から、実績で90.3%にとどまり、目標レベルを達成していない結果になっています。

次に、アクションプランについて説明します。

まず、項目の細分化についてですが、事業内容を明確にした上で、具体的にその評価を行うため、アクションプラン16の「児童生徒の成果発表」について、「絵をかく会の開催」、「総合展の開催」、「英語発表会の開催」、「音楽発表会の開催」、そして「文集・詩集『ともしび』、読書感想文集『本だな』の発行」の5項目に細分化しました。同様にアクションプラン70の「子どもたちの運動や遊びの場の確保」について、「学校体育施設等の活用促進」を含む3項目、アクションプラン116の「小中連携・一貫教育の推進」について、「小中連携教育の推進」を含む2項目、アクションプラン134の「千葉市教育の中核を担う教職員の育成」について、「現場研究員による研究」を含む4項目、以上合わせて4項目を14項目に細分化を行いました。

また、評価については、事業完了等の4項目を除く174項目を評価し、進捗状況の評価で特に成果が高いものが、11件で6%、平成24年度事業計画をおおむね達成しているものが、160件で92%、平成24年度事業計画が達成できなかったものが、3件、2%という状況になっています。

平成23年度のa評価が10%、平成24年度のa評価は6%となっており、昨年に引き続きa評価となっているアクションプランとしては、「小学校英語活動の推進」や「高等特別支援学校の設置」など7項目が該当しています。

なお、昨年度に引き続きc評価となっているものはありません。

特に成果が高いa評価の具体的なものとしては、アクションプラン49の、体験的な外国語活動を実施した「小学校英語活動の

推進」及び、アクションプラン107の、警察や道路管理者等と連携した「通学路合同点検」を実施した「防犯等安全対策の推進」などが挙げられます。

また、事業計画を概ね達成しているb評価は、アクションプラン185の「夢思いやりチャレンジ基金の整備」が挙げられ、本年3月に子どもの教育と社会参画促進のさらなる充実を図ることを目的として「千葉市教育みらい夢基金」を創設し、目的に沿った新しい事業を実施していくこととしています。

一方で、達成できなかったc評価としては、アクションプラン98-1の、屋内運動場の入札不調により、小学校27校の計画が22校の実施による目標減の「校舎・屋内運動場等の耐震補強」、そしてアクションプラン134-2の、研修の成果が見えにくいという理由で平成22年度から休止をしています「内地留学の実施」、アクションプラン170の、幕張インターナショナルスクールと交流を希望する学校がなかったことによる「インターナショナルスクールとの連携」の3項目です。

次に、アクションプランにおける平成24年度決算額及び平成25年度予算額についてですが、平成23年度の決算額が約140億2,000万円、平成24年度の決算額が約149億3,000万円、前年度に比較すると、約9億1,000万円の増額となっています。参考までに平成25年度の予算額は約172億7,000万円です。

なお、増額となった70項目のうち主なものは、平成26年度までにIs値0.6未満の耐震化を完了させる「校舎・屋内運動場等の耐震補強」に約54億6,000万円、各種改修実施設計を行う「校舎の改修整備」に約13億5,000万円、小学校6年生の分校校舎増築や給食室増築工事などを実施する「新宿小、新宿中の大規模校化への対応」に約5億5,000万円となっています。

最後に、平成25年度事業の評価に向けての達成指標及びアクションプランの見直しについてです。

まず、達成指標の見直しについてですが、平成24年度の実績値が最終目標値を上回ったことから、指標番号の33の「団体貸出資料の貸出冊数」など5項目の平成27年度最終目標値の上方修正を行うものです。

また、指標番号49の、「こども110番のいえ設置数」につ

いては、児童・生徒数が減少傾向の中、子どもが中学校を卒業すると登録を取りやめる家庭があるという実態がつかめたことなどから、設置数の最終目標値を2万件から1万2,000件へ下方修正するものです。

次に、アクションプランの見直しについてですが、新たに3項目を追加するとともに、1項目の名称変更をします。

新たに追加するものは、具体施策「理科教育の充実（『理科、算数・数学好き』児童・生徒の育成）」において、より一層充実させるための新しい事業を展開していくため、「理科教育サポート事業」、「千葉市未来の科学者育成プログラム」及び「科学部活性化事業」の3項目を追加します。

また、名称変更となるものは、「子育てハンドブック」の名称が「子育てナビ」に変更されたことに伴い、名称を「『子育てハンドブック』の配布」から、「『子育てナビ』の配布」に変更するものです。

篠原委員 指標番号28の「埋蔵文化財調査センターの出前講座を利用する児童・生徒数」のことですが、人数と学校数とどちらも表示するということとはできないのでしょうか。どうして延べ人数にしたのかをお聞きしたいと思います。

企画課長 埋蔵文化財調査センターの出前授業を利用する学校数ですが、まず、出前授業は学級単位で実施をしているため、年間で利用できる学校数は学校の規模で左右されてしまうことがあります。また、出前授業の内容によって、所要時間数も異なったり、各学校が選択する内容によって、年間で利用できる学校数が左右されるということがあり、利用学校数を指標とするのは難しいという考えで、そのような対応をしています。

篠原委員 はい、わかりました。どちらも表示をするということは、ここでは別に考えはないのですね。

明石委員 関連して、これはやはり学校数が正しいです。大規模校が1校行けば利用人数が大幅に増えるのだから、やはり篠原委員がおっしゃるように、学校数と延べ人数の2つの表示を、さらにできたら、小学校・中学校別に表示してほしいです。多分中学校はほとんど行っていないのではないですか。だから、そのような文化財の学習において中学校教育でどのように実施しているかというのは、今後大事になってきますよね。評価指数というのは余り細かくすると煩雑になりますが、こういう場合は両方あったほう

が分析しやすいです。成果を見る場合にどの指標を持っていたほうが客観的に把握をできるかという観点からいうと、学校数と延べ人数、両方欲しいと思いますね。それはお願いしたいと思います。

和田委員 同様の意見なのですが、パーセンテージで表せるものと、学校数と、人数と、3パターンの指標があると思うのですが、表示できるものはそれを全て表示してもらえると比較もしやすいし、全体の何%がそれに参加しているということもわかりやすいので、今後ちょっと考慮してもらえればと思います。

企画課長 来年度評価するに当たり、それらの点も踏まえ、所管課で検討していきたいと思います。

内山委員長 今年度はこの形ということですね。

中野委員 指標番号3の「『学校の勉強が好きだ』と肯定的に回答する中学2年生の割合」ですが、平成24年度の実績が65%で、評価Aとなっていますが、平成25年度の目標が50%とかなり低くなってしまうのはどうしてでしょうか。いいことだから、高いほうがいいわけですよ。

指導課長 これについては、中学校は新指導要領が全面実施になり、昨年は1年目で、今年2年目です。その2年間の状況を見ながら、次年度に向けて検討していきたいと考えています。

明石委員 ちょっと、もっと説明してくれないとわからない。何で本当に65%の実績値があるのに、50%の目標値になるのですか。15%は大きいですから。

指導課長 24年度の実績がなぜこのように繰り上がったかというところの分析もまだできていないという状況なので、1年間65%になったからといって、すぐにまた目標を上げることにちょっと躊躇しました。もう1年様子を見て、そしてできたら次に上げていければと考えています。

内山委員長 頑張って上げた数字であれば、また上がるのではないのでしょうか。いかがでしょうか。ちょっと難しいのかな。

指導課長 はい。

明石委員 これは学校の勉強が好きだという形を表した学校教育の評価の一番大きな指標です。これが15%上がったのは先生方や地域の努力が相当あったと思います。なぜ、それを集中的に分析しないかがわかりません。

多分総合的な力だと思うのです。細かな算数とか数学などの教

科もあるかもしれないけれども、もっと幅広く学校全体が好きな
のか。これは非常に千葉市にとってはいい例なのです。事務方
が全ての課を超えて努力して、15%上がるってうれしいこと
です。こんないいことをやっているのに、また目標を下げるとい
うことは、これを情報公開したら必ず突かれますよね。

和田委員 しかも、平成20年度から4年間で27%も上がっていて、
すごいと思います。

明石委員 たった4年間でこんなに上がっているのだから、それは本当
に千葉市の教育委員会のいいところです。

内山委員長 いかがですか。もう一回見直すべきか、今まで通りかどう
かなのけれども、自信がないですか。

指導課長 確かに勉強が好きとか、学校が好きとか、いろいろな要素が
あると思いますので、もう一度分析し、ここのところは目標のほ
うも上げる方向で検討させていただければと思います。

明石委員 この報告書の締め切りはいつなのですか。今日決めなければ
いけないのですか。

企画課長 了解を頂きましたら、ホームページ等で公開という形になろ
うと思いますが、そのスケジュールについて具体的にはいつとい
うのはまだ決まっていません。

明石委員 目標値50%を65%に持ってくればいいのです。ここが1
5%伸びたので、現状維持をまず保っていきたい。下げるとい
うのはちょっと良くないという提案です。

内山委員長 事務局でもう一度検討していただいて、もう一度この場で検
討してみましようか。

明石委員 時間があれば検討してほしいのですが、なければもうここで
決めたらいいんです。教育委員会で決める権利があるのですから。

指導課長 頑張ります。

内山委員長 頑張っていくかどうか。

和田委員 点検・評価とも関連してきますよね。

内山委員長 そうですね。

和田委員 上方修正と関連して、説明の中に上方修正している項目があ
りましたが、今と同じように、指標番号61の「教員採用選考に
おいて、インターンシップ研修生が本市を受験する率」というの
も、平成24年度実績は95%になっているのですが、やはり最
終目標が85%のまま、さらに指標番号81の「長柄ハッピーキ
ャンプに参加した後、学校や家庭でよい変容がみられる児童生徒

の割合」が実績値が75%なのですが、最終目標が60%のままということで、それも何か同様にこの2点にも理由があることなのではないでしょうか。やはり明石委員がおっしゃったように、せめて現状維持というところまで最終目標を持っていてもいいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

内山委員長 事務局はこの場で意思決定できますか。今幾つか挙がったから、もう一度見直してもらったほうがいいですね。

企画課長 それでは、指示のあった項目について、所管がそれぞれ分かれていますので、調整し、目標値については可能な限り最終目標をちょうど実績と同じくらいのところで修正できるようにし、教育委員会の点検・評価についての議決をいただく8月の定例会のときにあわせて説明します。

内山委員長 いいですね。

和田委員 2点ほど質問させていただきたいことがあります。指標番号10の「『算数の勉強が好き』と肯定的に回答する小学校5年生の割合」が徐々に減ってきていることが問題になっています。これに関してさまざまな今後の対策をとられているという説明が先ほどありましたが、5年生の段階で算数を急に一生懸命頑張っても恐らく理解するのは難しいわけです。5年生のある日突然わからなくなるわけではなく、少しずつわからなくなっていることの積み重ねが、難しい項目が入ってくる5年生でわからなくなってきていると思います。そのため、低学年から積み重ねて、この部分を重点的にし、そして5年生へのつながりの部分に関して、教員に対する研修など、ほかにも考えがあればお伺いしたいのですが。

指導課長 算数については、1回つまずくとなかなか次に挽回するのが本当に厳しいという傾向がはっきりしていますので、1年生からの学習内容が非常に大切だと考えています。

先ほど企画課長からもありましたように、学力向上サポーターとして、そのようなつまずきをなくすような人員を10月から25人配置していきたいと思います。また、各研修会ですが、5月に開催される各教科等主任研修会において、算数・数学の学習についても研究をしています。それ以外については、主に指導主事が訪問しての指導をしています。算数の基礎的なことに関する研修項目等については、教育センターと協議をし、専門的な研修を考えていきたいと考えています。

和田委員 はい、よろしくお願いします。もう1点、指標番号52の「LAN用コンピュータの整備状況」について、昨年度も質問したかもしれないのですが、平成24年度の実績が51%で、今年度も目標が51%、でも、2年後には100%に目標があるのですが、これは現実的に見込みがある目標なのでしょうか。

教育センター所長 全員配備を目標にしているのですが、ご存じのとおりITがどんどん進化し、時代はタブレットのほうに動いています。今のところ足りていない部分については、やはり100%を目標にしないではいけないと思っています。反面、タブレットの進行がありますので、それについては要望の動きを見ながら、調整していますが、一応目標としては100%を考えています。

和田委員 そのニュアンスが、この数字では伝わってこないのですね。

教育センター所長 その部分は、進化と現実の間にずれが出てきているのが、正直なところですよ。100%整備できたとしても、そのときには既に古い機械になってしまい、違う問題があるかと思いますが、やはり基本的には100%を目指さなくてはいけないと考えています。自分も矛盾は非常に感じており、センター自身も矛盾を感じているのですが。

内山委員長 2年間で100%ですね。お金の問題も大きいですか。

教育センター所長 そうですね。

内山委員長 お金の裏づけはまだはっきりしないのですか。

教育センター所長 はい。

明石委員 私は今回最初なので、ちょっと素朴な質問なのですが、達成指標のほうは年度別に平成20年度から当該年度までと、来年度の項目が掲載されていますよね。アクションプランというのは、例えば先程の「『学校の勉強は好きだ』と肯定的に回答する中学2年生の割合」の今年度の実績が65%ありますよね。それを50%に持っていくためのアクションプランなのか、それとも平成23年度の50%から平成24年度の50%に持っていくアクションプランなのかと、この数字はどちらでどう読めばいいのでしょうか。達成指標の数値とアクションプランの数値のずれをどうやって読めばいいかということに、今回困りました。

企画課長 達成指標の評価については、当然ながら平成24年度の目標に対して実績が出て、それに対して評価をしています。さらに、アクションプランについては当然ながら平成24年度もそれぞれのアクションプランの事業計画ですので、その事業計画を踏ま

えた事業の結果について、自己評価している形になります。

明 石 委 員 例えば、先程の学校の勉強が好きだという 65%の項目は、アクションプランでは5の「少人数学習指導員の配置」と7の「学校訪問指導の実施」を見ればいいのですか。

企 画 課 長 そのとおりです。

明 石 委 員 それで、この2つの数値がアクションプランの欄に記載されているのですね。アクションプランとは何ですか。達成指標でAとなっていて、アクションプランで5と7ともにbというのはどうしてですか。

企 画 課 長 アクションプランでbというのは、平成24年度の事業計画を概ね達成しているものになります。

明 石 委 員 けれども、達成指標で50%から65%になっているのだから、aにならないとおかしいですね。

企 画 課 長 達成指標の評価については、平成24年度の目標レベルを達成しているものがA評価という形にしています。B+、B-、Cについて、それぞれ23年度の実績よりも向上しているけれども、目標レベルを達成していないものはB+という形で表示をしています。

一方、アクションプランの評価については、特に成果が高いという基準にはa評価をして表わしていて、bは平成24年度の事業計画を概ね達成しているものという表示をしています。

明 石 委 員 こういう事業評価をするにあたって、最後にトータルで千葉市の何がよくて、何が大変だというのを、この教育委員会で決めなければ、結果だけで終わってしまいます。非常に頑張っているところはやはり非常に評価しなければいけないと、考えます。

例えば、理科が非常に頑張っていて、小学校で80%が好きだと言っています。千葉市だけの評価は、わかりますが、去年と今年では、ほかの政令市や全国との比較は、ここではほとんど出てきません。

そのような基礎データに基づいて、非常に良いところはもう少し評価していき、大変なところはどうすればいいかということを議論するのが、本当の教育委員会だと思っています。

それで、まず、理科と読書率とが非常に頑張ってくれています。しかし、算数・数学と英語が、理科に比べ低いというのは何が理由なのか、教員の問題なのかななどを議論していかないと、本当の教育委員会にならないと思っています。

内山委員長 今回の明石委員さんのお話は、教育委員会事務点検・評価報告にまとめられ、最後に1節設けて全体を評価し、今後の課題を取り上げていますので、そちらで検討するということが可能ですか。

企画課長 今お話がございました教育委員会の事務点検・評価報告については、8月の教育委員会会議で正式な議案という形で議決をいただくということを予定しています。今回はその前段として、教育委員会として24年度事業をまず評価した結果について、報告をさせていただくという形でまずはお願いしたいと思います。

和田委員 今回の明石委員の意見に関連してですが、全部の項目で全国と比較するのは、もちろんそれは難しいと思います。千葉市独自のものもあり、文言が違ふこともあると思うのですが、比較できる点については、参考でも構いませんので、全国平均と比べて載せていただくと、千葉市の中の蛙にならなくて済むかと感じたので、来年度以降、資料の作成の際にご検討いただければと思います。

明石委員 細かいところですが、指標番号32の「海外の学校との交流活動を実施している学校数」が23校とあるのですが、この内訳を小学校と中学校で分けてくれると非常にわかりやすい。海外の学校とのネットの交流なのか、人的交流なのかということをごここて言い切れませんが、小学校の英語活動において人的交流を行い、9割の方が高い評価をしているから、小学校のほうの交流が多いのか、中学校の英語教育のおかげでネットで交流できるから、中学校のほうの交流が多いのかということ进行分析するためには、小・中別が出てくるといいと思います。ですから、先程のパーセントや学校数や延べ人数と同じように、評価の場合は小・中で分けてくれていると良いですよ。非常に大事な指標なので、このあたりも分けてくれることを、次からお願いしたいですね。

内山委員長 もう捉えてありますね。

指導課長 はい。

内山委員長 今回はこの表示のままでよろしいですか。

明石委員 今回はいいです。

内山委員長 次の課題としてください。

報告事項(3) 千葉市立真砂東小学校の仮校舎から本校舎への移転について

内山委員長 学事課長、報告をお願いします。

学事課長 報告事項(3)「千葉市立真砂東小学校の仮校舎から本校舎への移転について」、報告します。

真砂東小学校については、旧真砂第一小学校と旧真砂第四小学校が統合されて、平成23年4月1日に開校しています。

本校舎については、旧真砂第二中学校の校舎を大規模改修し設置しますが、本校舎改修期間中の平成25年7月31日までの間は、旧真砂第四小学校跡の美浜区真砂3丁目14番1号の仮校舎を暫定的に使用していました。

今回、本校舎の改修工事が完了し、平成25年8月1日から、旧真砂第二中学校跡である美浜区真砂2丁目13番1号に移転することとなりました。仮校舎として使用する期間の末日が「平成25年7月31日」と定められることとなり、平成25年7月12日に市長が規則を制定しましたので、報告します。

和田委員 今度は旧真砂二中の校舎を真砂東小学校の校舎として使用するというので、中学生が今まで使っていたものを小学生が使うということになるわけですが、改修に際してそのあたりのことを配慮した点がもしあれば、聞かせてください。

学校施設課長 中学校の校舎を小学生が使うということで、階段室の階段の高さ、トイレ、手洗い場、それから中学校に給食室がなかったので、造ったりなど、全てにおいて小学生が対応できるように改修しています。

和田委員 階段の高さも変わったんですか。

学校施設課長 もともとここの旧真砂二中の階段の高さは、建築基準法で16センチまでと決められている中で、15.6センチと適応していましたので、階段に関してはそのまま使われています。

和田委員 はい、わかりました。今後また、実際に小学1年生が使用し、使ってみると不具合が出てくることもあるかと思いますので、迅速なご対応をお願いできればと思います。

学校施設課長 承知しました。

報告事項(4) 夏季休業中の事故防止について

内山委員長 学事課長、報告をお願いします。

学事課長 報告事項(4)「夏季休業中の事故防止について」、報告します。

7月21日から長期の夏季休業に入りますが、教育委員会では、例年市内の小・中・特別支援学校長宛てに、「夏季休業期間中の学校事故防止及び職員の服務等について」を発出し、事前指導を実施するよう通知しています。

本年は6月14日付で発出しました。

主な内容については、「問題行動等の指導について」あるいは

「水泳・交通安全指導等について」「事故対策について」のほか、「自主的な生活設計を立てさせる指導」「運動部活動・対外協議等」「生命尊重の教育の充実」等の7項目となっています。

なお、児童・生徒の交通事故については、「水泳・交通安全指導等について」の中で、「自転車乗車中の事故が急増している」ことを明記し、交通事故防止に向けての安全指導を強化するよう依頼したところです。

この通知に基づき、各学校においては暑さが予想されることから、熱中症予防も含めたきめ細やかな事前指導を意図的・計画的に実施するために、夏季休業中の指導計画及び生徒指導計画を、7月5日の金曜日までに指導課に報告することとなっています。夏季休業中の事故防止に細心の配慮をしながら、各学校において対応を進めているところです。

今後とも教育委員会としても、引き続き子どもたちが事件、事故に巻き込まれることなく、有意義な夏休みを過ごせますよう、時宜にかなった必要な情報提供に努めるなど、学校現場を支援していきたいと思っています。

明 石 委 員 非常にいい提案だと思うので、こういう夏休み中の事故が、千葉市で過去5年間どのくらいあったのか、教えていただきたい。

学校がないときは家庭と地域が全面的に責任を持ってもらうのですが、非常にいろいろな家庭、いろいろな地域があると思います。市内の6つの区の中の事故の頻度や、6つの警察署と共有しながら、データを出していただきたい。学校が関与した事故、自然教室を含めた事故と、学校は関与しないのだけれども、家庭と地域で起こった事故件数をまず押さえていきたいと思っているのです。

そこで、この通知がいいと思ったのですが、文言が学校事故防止及び職員の服務とあり、学校事故ということはどういうように捉えているのですか。学校休暇中に学校事故というのは、学校公開してプール指導をした際の事故数なのか、今回はどう考えていきたいのでしょうか。私が学校長の場合は、通常通知されたときにその辺のことをどういうようにしたらいいか非常に困るのですよ。

学校以外の警察との学警連携、青少年相談員や、地区の青少年健全育成をする外部団体、担当しているこども未来局との連携をどうするのかということとともに、当面学校が所管する事故件数

や、学校以外の機関のつながりを夏休み前に集まって話し合うという内容など、学校長宛てに通知があると、学校は手を打ちやすい。ほとんど事故がなければいいのですが、事故があった場合にはこのような対策をしたほうがよいので、5年間でどのような事故があったのかということが聞きたいと思います。

内山委員長 データがありましょね。

学事課長 今、ご指摘の夏休み中の事故のデータについては、今手持ちがありませんので、調べて、報告したいと思います。

それから、学校事故の防止と申しましたが、会議資料の内容は抜粋で、実際には子どもの事故から、生徒指導にかかわる問題、教職員の事故・不祥事を含めて、大変幅広く通知しているものです。これらを受け、各学校では夏休み前に、担任を通じて子どもに対する指導をし、指導計画などができ上がっていくという形になっています。それぞれの中には細かいところまで書いてないところもありますが、例えば何か大きな事故があった際は、事故の原因にかかわることについて、学校に指導している文書を参照してもらおうとか、あるいは不審者などのことについては、対応のマニュアルなどをつくったものがありますから、それらを見て、各学校に連携をとるようという指導も、文章の中であわせて伝えているところですよ。

明石委員 「学区内の危険箇所の点検確認を実施するとともに」とあり、最後には、「立ち入らないように指導する」とありますが、この指導を学校だけではできないでしょう。だから、その指導をする場合には、学校も頑張りますが、地域の皆さんもお願いしますというような通知をくれると学校も動きやすいと思います。

学事課長 その点については、この山倉ダムや印旛沼の立ち入り禁止区域など、それぞれ地域ごとに、県の所管から各学校に通知が出ていまして、それを直接お知らせしたり、また各学校からの学校だよりや学年だより、あるいは夏休みのしおり等の中でお知らせしていくという形になっています。

委員ご指摘の青少年補導員や相談員との連携については、どのくらい行っているかということまでには把握していませんが、学区探検なども地域と相談して適宜行われていると把握しています。

内山委員長 学校としては、学校外のことも含めて情報を集めて、そして学校として受けとめて指示を出しているということですか。

和田委員 育成委員会などが地域のパトロールをしてくれていると思うのですが、その際に、各学校の先生方も一緒に回っているので、そこで情報の共有はできていると考えます。

明石委員 和田委員が話してくれたように、地区委員会の中でやっていかないと、余りにも教師の負担が大きく、しんどいと思います。私の住んでいる地区では、普段からセーフティガードの方が夜6時には標識持ってパトロールしてくれています。あれを夏休み40日間やってくれると、教師の休憩時間、休み時間を与えられると思うのですよ。

内山委員長 地域ボランティアですね。

明石委員 そうです。そういう方の協力もお願いしたい。

内山委員長 そのあたりは課題ですね。重大事故を絶対に起こさないということで、ひとつよろしく願いいたします。

和田委員 毎年自転車のことについて必ず話題に上り、もちろん自転車に乗っていて事故に遭うということは、大変危険で防いでいかななくてはいけないと思うのですが、自転車のマナーが悪いことによって、子どもたちが加害者にもなってしまうことがあるということは、気をつけていかななくてはいけないと思います。中学生になるとヘッドホンをしていたり、携帯をいじっていたりということが多くあると思うので、自分が誰かにけがをさせてしまうということもあることを、ぜひ指導の中に加えていただきたいと思います。要望です。

保健体育課長 保健体育課では特に自転車事故の急増に伴う交通安全指導等についての通知等を実施しています。

志村教育長 今年度は、事故が多発していることから、夏休みに限らず、必要に応じて、その都度部長名や課長名で通知しており、私の名前でも1回出しています。放課後二人乗りの事故が何件か続いた場合には、当然通知し、その中にも、加害者になる心配があるということも含めています。これは夏休みももちろんですが、今は放課後に多発しているので、家庭への注意喚起がどうしても必要なものについては必要に応じて出しています。

それから、夏休みに入るときに、各家庭のほかに地域宛てに、私の名前でメッセージを出しています。その中では、今明石委員から話があったような危険箇所も含めて、地域の方々に見守りが必要だということの徹底をお願いしたいという内容も含めています。しかしながら、それがどの程度徹底するかということは、

これから先検討していかなければならない内容だと思います。子ども達に事故なく過ごしてほしいので、今後も万全を期すように努力します。

内山委員長 ぜひ、明るく楽しい夏休みにしてもらえるように、よろしくお願いいたします。

報告事項(5) 第66回千葉市中学校総合体育大会の開催について

内山委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

保健体育課長 報告事項(5)「第66回千葉市中学校総合体育大会の開催について」、報告します。

この大会の種目、会場、日程については、駅伝・ダンスを除く16種目の競技は7月20日(土)から25日(木)まで開催される本市中学生約9,000人の選手が参加しての大会です。駅伝については、10月1日(火)、ダンスについては、10月25日(金)の開催になります。

この大会は、県大会、関東大会、全国大会へとつながる中学生にとっては最も大きな大会です。

県大会は、7月26日(金)から8月2日(金)までの8日間に県内各地で行われ、陸上競技、サッカー、軟式野球、体操競技、ソフトテニス、硬式テニスの6種目が本市で開催されます。

関東大会は、8月5日(月)から12日(月)までの8日間、関東各地及び山梨県で開催されます。

なお、バドミントンについては、千葉ポートアリーナを会場として、8月7日(水)から9日(金)の3日間開催され、サッカーについては、本市会場であるフクダ電子アリーナや稲毛海浜公園球技場を含め、5市で8月6日(火)から9日(金)の4日間開催されます。

全国大会は、8月17日(土)から8月25日(日)までの9日間、東海ブロックにおいて開催されます。

昨年度は、新体操で、全国個人総合優勝、種目別優勝を果たした選手もいましたので、今年度も本市代表の選手の活躍を期待しているところです。

内山委員長 学年は中学校何年生ですか。

保健体育課長 中学校1年生から3年生が参加です。

明石委員 県大会、関東大会、全国大会に出る場合があるかもしれないので、千葉市の代表という意味で旗を作り、応援してあげるといいですね。中学校連盟あたりでもう作ってあるのでしょうか。

内山委員長 ないですね。

明石委員 せっかく市の代表ですから。

内山委員長 旗は高いでしょう。

明石委員 横断幕はどうですか。

和田委員 会場の横断幕は1枚では足りないですね。

内山委員長 いろいろな種目がありますからね。入賞、優勝した種目については何か励ますために、少し考えてみてください。

保健体育課長 ちなみに全国大会ですが、優勝または準優勝をしますと、記念品の贈呈と、教育長への報告会を行っています。

内山委員長 ぜひ、皆さん頑張ってください。

報告事項(6) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とする主な事業について

内山委員長 生涯学習振興課長、中央図書館長、報告をお願いします。

生涯学習振興課長 報告事項(6)「生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とする主な事業について」、報告します。

初めに、生涯学習振興課所管公民館で実施する主な5事業については、いずれも体験型の教室講座となっています。特に、夏休み子ども講座「おとまりIN星久喜」については、宿泊を伴う唯一の公民館事業になり、事業の実施に当たっては地域スタッフのほか学生ボランティアの協力も得ながら実施します。

生涯学習センターの主な事業については、ハローワーク講座や和楽器の合奏、親子料理教室など多彩な内容となっています。中でも宇宙の不思議については、国立天文台が開発したソフトを使い、地球から宇宙の果てまでの姿を体験してもらいます。

科学館の主な5事業については、今年度も夏休みの自由研究の支援、また各種の科学工作に係る事業を実施します。

加曽利貝塚博物館と郷土博物館の主な事業については、縄文体験や土器づくり、郷土史講座など、歴史や郷土への関心を育む本市の博物館ならではの事業を実施します。特に、加曽利貝塚については、現在、国の特別史跡を目指していますので、この事業を通し、参加者にこの取組みについてもPRしていきたいと考えています。

最後に南部青少年センターについてですが、同センターの催しとして市民の方に定着しているサマーチャレンジ工作、ダンス教室等を今年度も開催します。

これらの事業については、7月1日号の市政だより及びホーム

ページで掲載しているほか、必要に応じ近隣の小・中学校にビラ等を配布しています。

中央図書館長 続いて、図書館における夏休み中の子どもたちを対象とする主な行事について説明します。

図書館では、子どもたちの読書に親しむ機会を提供するために、「夏休みは図書館へ行こう」というテーマで各種行事を実施します。まず、子どもたちの図書館の仕事についての理解を深め、また、読書への関心を高めるために、図書館体験として、中央図書館では親子図書館探検ツアー、地区図書館においては、子ども一日図書館員を実施します。

次に、夏の親子おはなし会では、親子で楽しむおはなし会のほか、高校生が語るおはなし会や、工作とお話を組み合わせたおはなし会など、ふだんとは違う手法で本に親しんでもらいます。高校生が語るおはなし会は、植草学園大学附属高等学校及び千葉聖心高等学校の生徒の協力を得て、7月21日から8月25日までの日曜日に、全6回実施します。

変わったところでは、みやこ図書館において、「夏のこわ〜いお話」と題して寄席を開催します。

また、科学に関する読みものや自然科学、技術工作等の資料に興味を持ってもらえるよう、科学工作や科学遊びを体験してもらうほか、図書館を親しみやすい施設と感じてもらえるよう、子ども映画会やアニメ映画の鑑賞会を実施します。

なお、これらの行事については、7月1日号の市政だより及び図書館だより、それからホームページで広報していて、事前申し込みが必要な行事については、ほぼ定員をオーバーしているという状況です。

明 石 委 員 両方とも非常に素晴らしいですね。そこで、お願いします。市政だよりとホームページと、公民館や学校に広報し、どちらのほうが、来場した子どものインパクト係数が高いかのデータを取ってほしいのです。今後、社会教育関係の事業を行うときに、どのチャンネルが一番有効性を持つかというのをとっておくとよろしいかと思います。

例えば図書館の場合にお願いしたいのは、お知らせを学校図書支援員の方、または教頭に配ったほうがいいのか。要するに教頭はたくさんの募集が来るので、学校図書支援員の方宛てに配ったときは、図書館行事一覧などは、子どもたちにもすぐ伝わりやす

いのかとかを含めて実施してもらえると、今後の広報の打ち方がわかってくるかと思っています。そのようなデータを、簡単なアンケートでよいですから、とってもらえるといいかと思います。

生涯学習部長 お話のとおりすばらしいアイデアだと思っています。簡単なアンケートを配布していきます。ありがとうございます。

和田委員 今のことに少し関連するのですが、お知らせを見たり、市政だよりとかホームページとか、公民館へ足を運んだ際には、そこでの掲示を見たりして、足を運んでくれる、参加してくれる層というのは、もともと興味があって積極的に参加しようと思ってくれる保護者もしくは子どもたちだと思うのですね。

そうではなくて、あまり家庭の中でもそういうことが話題に上らない、興味がないという子どもたちに何とかアプローチしていくには、何度も言うようなのですが、やはり学校の担任の先生の力をお借りするのが一番だと思っています。学校の先生が、例えば公民館からのお知らせを配る際に、今度、何月何日にこういうことがあるから、これは理科の授業でやったあの単位と関連しているから行ってみたらどうかとか、そういう一言があるだけで、今まで興味を持たなかったり、親からのそういう話がなかった家庭の子どもたちにも届くと思いますので、ぜひ、校長先生を通じてでも、そのあたりのことを徹底して先生方をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

内山委員長 今までいくつか案が出ましたが、少し考えてもらえればと思います。よろしくお願いします。

和田委員 本当に毎回バラエティに富んだものが出てきていて、特に民間企業と連携してやるのが、やはりすごく新鮮で、今までとは違ったことだと感じます。去年もあったかもしれませんが、今回も東京ガスさんと、あとウェザーニューズさんに協力をいただいているようなのですが、やはり視点の違った企画ができてくると思いますので、ぜひ、これからもまた協力してくださる企業の方を発掘して、協力いただいて、新しい企画をしていただけたらと思います。

南部青少年センターの「ガスをリサイクルして万華鏡をつくらう」には、協力東京ガスと入っているのですが、ほかのところには協力企業名が入っていないのですけれども、これは本当にないのでしょうか。

生涯学習振興課長 徹底します。

和田委員 せっかくご協力いただいているので、やはり名前を出したほうがいいかと思いました。

生涯学習部長 確かに民間企業も少しずつそういう開拓をしています。

それから、先ほど図書館からも申し上げましたように、大学生や高校生、そういう方々に、またちょっと違った形で子どもたちと接してもらうことができ、これは子どもたちも生徒たちもまたそういう経験を積めるので、そういう企画も少し増やしていこうかと考えています。

また、先ほどの落語の方はNPOなのですが、そういう方々もちょっと発掘していまして、できるだけ我々もいろいろなチャンネルを増やしていこうと考えています。

和田委員 楽しみにしています。

8 その他

- (1) 猛暑対策について、和田委員から質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

和田委員 昨日、今日はちょっと過ごしやすいのですが、この前まで大変な猛暑で、まだ学校もある段階で、ほかの自治体では体育の授業で持久走などをやっていて、熱中症になったというニュースも幾つかありましたが、千葉市内ではこの高温の続いたということによって、何か起きていないのでしょうか。

それと、高温が続く場合には、どのような通達を委員会から出しているのかということをお伺いできればと思います。

保健体育課長 熱中症での被害についての報告は数件受けております。ただ、大事には至らなかったということです。

また、通知についても、教育委員会から文書を発信しています。

和田委員 やはり体育の授業だと、ふだん運動部で運動をしている生徒ではない生徒も高温のもとで運動することになるので、より大きな配慮をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

- (2) 第8回定例会は、平成25年8月21日（水）午後2時より開催することと決定した。また、第3回臨時会を8月2日（金）午後2時より開催することが決定した。

9 閉会

内山委員長より閉会を宣言